

○神坂明茂・安藤忠弘  
(宮崎畜試川南)

【目的】

トウモロコシ価格や原油価格等の上昇に伴い、国内配合飼料価格の高騰が深刻な問題となっている。そこで飼料用米の利活用を検討するために、みやざき地頭鶏への給与試験を実施した。

【材料および方法】

2008年11月から2009年4月に試験を実施した。供試鶏は当支場で生産したみやざき地頭鶏を用いた。試験区は、対照区と飼料用米(粳)を10%、20%配合した2区を設け、供試羽数は1区当たり雌雄それぞれ12羽を供試し、2反復試験した。試験期間は、試験開始日齢を29日齢とし、供試終了日齢は雄120日齢、雌150日齢とした。

調査項目は増体量、飼料摂取量、飼料要求率、解体成績等とした。

【結果および考察】

表1に育成率、飼料摂取量、要求率について雌雄平均値を示した。育成率は10%区が93.8%、20%区が91.7%と対照区より高くなった。飼料摂取量は20%区が16445.8gと高かったが、このことは試験開始期の飼料の食い選びによるものと考えられた。飼料要求率は10%区、20%区共に対照区より良い結果となった。

表2に週齢別体重の推移について雌雄平均値を示した。8週齢から16週齢及び出荷体重は雌雄平均とし、20週齢体重は雌のみの値を示した。各区で有意な差はみられなかったが、出荷時体重は、雌雄ともに10%区、20%区において対照区を上回る結果となった。

表3に解体成績を雌雄平均値で示した。解体成績において各区で有意な差はみられなかったが、20%区で歩留り以外は他区より高い値となった。

表4に飼料価格について示した。飼料用米の価格については、本県飼料用米生産費から、また配合飼料価格は、農畜産業振興機構「畜産の情報」のブロイラー(後期)2009年3月期の価格を参考にした。各試験区の飼料単価は10%区で67.0円/kg、20%区で69.0円/kgと対照区よりも高くなった。1

羽当たりの飼料費は29日齢から出荷時までの雌雄平均値で示したが、20%区については飼料摂取量が高かったことから他区よりも高くなった。

消化状況について糞便調査を行ったところ、糞便中に粕殻は認められたが、米の破片は認めなかった。

本試験において、みやざき地頭鶏では飼料用米(粳)20%区で対照区と大きな差がなかったことから、20%配合が可能であることが示唆されたが、配合飼料及び飼料用米価格によって配合割合は検討を要する。また、飼料用米の嗜好性は高く、鶏が飼料用米を食い選びする際、配合飼料を飛散させることがあるので給餌方法に工夫が必要である。

表1 育成率・飼料摂取量・要求率 (%、g/羽)

	育成率	飼料摂取量	要求率
10%区	93.8	15345.7	5.57
20%区	91.7	16445.8	5.77
対照区	81.3	15827.0	5.79

表2 週齢別平均体重 (g)

	8w	12w	16w	20w	出荷時
10%区	1699.9	2557.8	3261.1	3106.4	3395.7
20%区	1668.8	2631.3	3290.6	3137.1	3476.6
対照区	1659.5	2620.7	3193.1	3049.5	3312.4

注) 20wは雌のみの値

表3 解体成績 (g/羽、%)

	モモ肉	ムネ肉	ささみ	腹腔内脂肪	歩留り
10%区	717.8	433.6	104.3	116.9	36.9
20%区	763.7	457.4	108.5	137.4	38.0
対照区	742.7	448.9	107.4	123.4	39.0

表4 飼料価格 (円/kg、円/羽)

	飼料単価	飼料代
10%区	67.0	1029
20%区	69.0	1135
対照区	64.6	1023